

# 助けて!私たちは にっちもさっちもいかない (冷戦状態)です

## コロサイ人への手紙

### 1章:21節-23節

1:21 あなたがたも、かつては神を離れ、心において敵となつて、悪い行いの中にあつたのですが、

1:22 今は神は、御子の肉のからだにおいて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させていただきました。それはあなたがたを、聖く、傷なく、非難されるところのない者として御前に立たせてくださるためでした。

1:23 ただし、あなたがたは、しっかりとした土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者となったのです。

父が息子に「お母さんのところへ行って許してもらいなさい」と言いましたが、息子は「嫌だ!」と答えました。その息子が母に対して思いやりのないことをしたので、父がそのことを謝るよう息子に言ったのでした。そして父は、「許してくれるようお願いするまで、寝室から出てはいけませんよ。」と息子に言って朝、仕事に出かけました。その日の昼、家に帰ってきた父は、もうすべて解決しているだろうと思ひ、妻に息子がどこにいるのか聞きました。すると「まだ寝室にいる



わ」という答えが返ってきました。父は寝室に行き、お母さんに許してもらえるよう頼んでほしいと話しましたが、息子の答えは変わらず「嫌だ」でした。父は息子に言って聞かせたのですが、説得することはできませんでした。父は、また仕事に出かけ、今度はもう謝っているだろうと思ひ込みながら夜、家に帰ると、まだ息子は寝室にいたのです! 父は、また息子に母のところへ行かせようとしたが行きません。母も説得しましたが、同じく無理でした。

その父と母は、その日、寝ることができませんでした。二人は、息子が謝りに来るだろうと期待したのですが来ることはなく、両親も子供も落ち着かない夜を過ごしました。この両親と息子の間に起きた問題によって生まれた疎遠な関係は、とても辛いものでした。母にとって、そのような夜を過ごしたことがなく、まるで死が家に訪れたようだと言いました。

その心の痛みと重荷は、その子供と両親にとって辛いものとなりました。

“助けて! 私たちはにっちもさっちもいかない(冷戦状態)です“

## 疎遠

聖書は、さらに深い疎遠の本質を明らかにしています。それは、罪があるために生まれる人と神との間の疎遠です。最近、私の英語クラスで罪について皆さんと話しましたが、罪を認めることは、とても難しいようです。一人の生徒さんが、日本の社会で罪人と言うと何かひどく悪いことをして刑務所に行かなくてははいけないような人のことだと言いました。罪をもっと分かるようになるには、聖書に書かれている罪の本質を理解することです。罪は、とても嫌なものです。罪は、何かをするだけでなく、聖書によると心の状態でもあります。聖書は、罪とは神の律法や御心に反するすべてのことであると明らかにしています。例えば、嘘をつくと罪を犯します。なぜですか? それは、神が「偽りの証言をしてはいけません」(出エジプト記20章16節)と言っておられるからです。

神がしてはいけないと言われることを行くと、罪を犯したことになります。さらに、神が命じたことをしないのも罪になります(ヤコブの手紙4章17節)。罪は、神の御心に背く行ないです。どちらにしても、その結果は、永遠に神から離されてしまうことになります(イザヤ書59章2節)。すべての人が罪人です(ローマ3章9-18節)。聖書に、私たちは「生まれながら御怒りをうけるべき子」であると書かれています(ローマ2章3節、エペソ人2章3節)。私たちは、態度と行いの中で神と戦い、創造主を敵に回しています。これが私たちの本来の状態であり、神との和解が必要なのです。

最初にお話した頑固な息子のよう、私達も神と和解する必要があります。その息子は今のところ、まだ許しをお願いすることを拒んでおり、彼の態度から和解に興味がないことが伝わってきます。しかし、それによって状況が良くなることはありませんでした。彼にとって、そのような体験からくる心の痛みや重荷は、顔には出さなくても、とても惨めなものでした。

あなたは、神から離れた結果として生まれる惨めさや心の痛みをどうしますか。罪の現実や神との和解の必要性は、私たちが時々、聞きたくないと思ってしまうメッセージです。私たちは、神との和解を求めるよりも、状況を回復するために自分たちで考えられるすべてのことを試す時があるでしょう。そのような時、惨めな気持ちになったり、何か間違っていると気がつくかもしれません。

**和解**

神から私たちを引き離す罪の問題は、解決されなければなりません



た。神との関係を変える唯一の事は何でしょうか。和解を行うために、神は、私たちが間違っても問題ないと見なすことは「されませんでした」「できませんでした」。神はイエス様の正しい人生、死、そして蘇りによって和解を成し遂げられました。罪と神との疎遠によって、私たちは無力になります。しかし「私たちが、まだ弱かった時、キリストは定められた時に不敬虔な者のために死んでくださいました」(ローマ5章6節)。イエス様は、罪人の代わりとして死なれ、その死によって神を信じるすべての人のために神との和解と罪の赦しを保障されました。



神を信じる人もみんな、かつては怒り受けるべき子どもでしたが大切な神の子供にされました。(1ヨハネ1章3節)。私たちが命の救い主、主として

イエス様をたたえる時、イエス様は過去の罪の責任から救いだし、神のいない人生を送ることで受ける神の怒りから守ってくださいます。

神は、私たちが神に対して行う義務を代わりに果たして下さり、また、私たちの失敗に対する対策を備えてくださいました！私たちはキリストを通して、神と和解しました。

時々、神が和解する必要性を教えるため、私たちに辛い経験をさせているように思

うことがあります。神は、優しく神だけが満たすことのできる人生の必要な点に導いて下さり、その必要性を神が備えていると示して下さる忠実なお方です。神は聖霊によって高慢やうぬぼれを打ち砕くよう働きかけることができます。私たちが悔い改め、そして、キリストとキリストの働きに対する個人的信仰を持てるように神が導いてくださいます。

神は、神自身と人を和解させ、その人の人生を変えて導き続けてくださいます。イエス・キリストはその

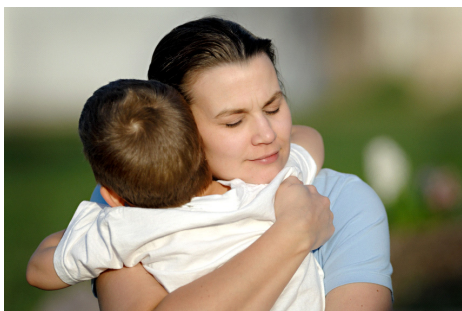
変化の確かな基礎です。神と和解した人は、信仰によって福音の確かな基礎の上に人生を作りあげなくてはなりません。私たちの心と意志をキ

リストに委ねることで、信仰の中で歩き続け、成長していきます。神は、私たちの人生に働き続け、その働きを完成して下さる忠実なお方です。神はご自分の子供を見捨てないと約束されています(ローマ8章30節、ピリピ1章6節)。

父と母にとって眠れない夜が明け、父は重い気持ちで仕事に出かけました。母は息子の部屋へ行き、「お母さんに許してもらえませんか頼んでごらん」と息子に言いました。しかし、息子は顔を壁に向けて話そうとしません。父は、また昼の休みに仕事から戻ってきましたが、相変わらず息子は頑固なままでした。「惨めな」勝利になってしまいましたが、息子が勝つかのようでした。しかし両親は息子のこれからのことを思い、降参することはできませんでした。状況は絶望的に見えました。

そして、その午後、また母が息子のところへ行き、彼に心をこめて話しかけました。母は息子の中で何かが変わったことに気づきましたが、彼は、まだ応えることができませんでした。

そこで母は『お母さん』と言ってごらん』と話しかけてみました。すると、息子は「お母さん」と口を開きました。母は次に「今度は、『許して』と言える？」と聞くと、息子は「許して」と繰り返しました。そして続けて『僕を』という母の言葉に、「僕を」と息子は繰り返し、喜



びながらベツから飛び出しました。「言えた、言えた！」と彼は喜びながら叫び、「嘘じゃないよ、お父さんにも

和解と永遠の命に導きます。今日、みなさんは、ご自分がどのような状況だと思いますか？



変わりたいという意志や望みのない心の罪に縛られているように感じますか？

悔い改めて和解するように呼びかけている神の前で黙っていますか？

(コリント25章20節)。あるいは、神との和解に導き言葉が聞こえますか？

神は、キリストを通して、この世と和解をしています。悔い改めてキリストへの個人的信仰を持つ人は、神の前に立ち、キリストの働きによって完全に和解しています。

神は、神を求めている傷いた悔い改めの心を断りません。

祈りましょう

親愛なる主イエス様

言いたいから、お父さんのいるところに連れてって」と頼みました。

息子にとって、母と和解した嬉しさは、新しい命とエネルギーを得たようでした。彼は、父に話すことが待ちきれませんでした。両親の愛は、ついに閉ざした心を破り、思っていることや一番必要なことを言葉にできるよう辛抱強く、しっかり導きました。このように許しは自由と和解をもたらしました。

自分たち独自の方法は、離別と破壊をもたらします。神の方法は、

神から私たちが離す罪の問題は、十字架で解決されました。本当の和解した信仰と希望は、神様にだけあります。救いの御業と、神との和解を与えてくださりありがとうございます。

どうぞ私たちが自分の罪と、神への反抗を認めることができますように。

「もし私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正し方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちがきよめてくださいます」(1ヨハネ1章9節)。

このお約束が真実であることを感謝します。

私たちにイエス様が必要なことをわ  
からせてください。

イエス様への個人的信仰によって  
神とまわりの人たちとの交わりを持て  
ることを感謝します。

この祈りをイエス様のお名前によって  
お祈りいたします。

アーメン